



障害のある人も暮らしやすいまちをつくるために、地域の住民として何ができるか。今回は、住民同士の交流を意識したイベントや講演会を通して、障害者への理解を促進する活動を2件紹介します。

クローズアップ地区部会
おゆみ野地区部会

～ひとりぼっちにさせない取り組み～

NPO

学校

地域の協力者

おゆみ野地区部会
障がい者福祉委員会
当事者や家族から
ヒアリング

障害のある人の困りごと…

- ・地域に居場所がない
- ・イベントに参加したくても気が引けてしまう
- ・気軽に話せる仲間が欲しい

お楽しみ会



▲夏の流しそうめん

夏と冬の年2回、鎌取コミュニティセンターで障害児者とその兄弟、保護者の交流の場を開催しています。特別支援学級や施設以外の「地域でのつながりの場」を地区部会が作っています。

お楽しみ会は、まちで気軽に声を掛けあう仲間ができ、子ども達の成長・親の気づき、地域づくりの場となっています。

おしゃべり会



◀キャンディレイを
作りながらおしゃべり

おゆみ野公民館で年4回、障害児者やその保護者同士の交流の場として、日ごろの楽しかったことや困ったことをなんでも情報交換できる場です。気軽に参加してもらえる雰囲気づくりを心掛けています。笑いあり涙ありの2時間程度のおしゃべり会です。

参加者それぞれの抱える胸のうちのちをみんなで話し合える場になっています。

参加者からの声

- ◆我が子に障害があり、特別支援学級に入れた方が良いのか悩んでいる時に、「遊びに来たら」と声を掛けてもらった。色々な障害のある子ども達の中に我が子がすんなりとけ込んでいる姿を見て、この子にはこの子の居場所があるのだと気づかせてくれました。
- ◆子育ての悩み、親として、母として、嫁として、夫にも言えない悩みや不安がなぜか自然に言えました。同じ悩みをもつ者同士、先輩方の温かさの影響が、とても不思議です。

主催者の声

“障害のあるなしに関係なく思いや悩みをみんなで共有したい”、そんな思いで始まった取り組みです。参加者からいただく声から、実施したことへの意義を感じています。参加したくてもできなかった人に参加していただけるよう、今後も継続して開催しつつ、内容の充実を図っていきたいと思います。

次回のイベントは5月末を予定しています。詳細は、社協緑区事務所HPをご覧ください。

障害のある人にもやさしい地域づくりフォーラム

障害のある方へ

- **おひさまクラブ**
個別の悩みや知りたいことを福祉の専門家を交えて語りあう会を月1回開催。

地域づくりへの発展

地域の方へ

- **今回のフォーラム**
- **基調講演**
障害者差別解消法について
- **パネルディスカッション**
行政職員、地域の小学校、銀行、不動産会社、障害者福祉施設の代表がパネラー

障害のある人にもやさしい地域

さつきが丘・宮野木台地区部会が、昨年12月9日(金)に開催した「障害のある人にもやさしい地域づくりフォーラム」について、「障がい者福祉委員会」の委員長にお聞きしました。

開催に至った経緯を教えてください



障害者とその家族の集まりとして「おひさまクラブ」を5年前から開催していましたが、昨年の障害者差別解消法の施行を地域で踏まえて、身近な事業者の方々から対応状況をお聞きした結果、障害者への理解や思いやりを更に深める必要があると感じ、このフォーラムがそのきっかけになればと思い企画しました。

開催にあたっての苦労や開催後の感想をお聞かせください



- 初めての企画であり、どんな方が何人参加してくれるか予想できず、不安でした。障害者への差別禁止、思いやり、共感を広げたいと思い、開催当日まで広報を続けました。
- 津久井やまゆり園の事件後ということもあり、このフォーラムを通じて、障害者に「これまでの日常生活を安心して継続してほしいと願う地域住民が大勢いるんだ」というメッセージを伝えたいと思っていました。他の地区部会、障害者とそのご家族、一般住民など80人近い参加をいただき、一定程度企画のねらいは伝わったと感じています。

今後の展開についてお聞かせください



- フォーラム参加の障害者から、「津久井やまゆり園の事件後の電車内で、子どもたちが障害のある友人を指さしてひそひそ話をしていた」との事例報告がありました。報告者から、差別をなくすため、これからもフォーラムを続けてほしいとのメッセージもいただき、主催者としても取組みの必要性を確信しているところです。
- 具体的な計画は今後議論していきますが、今年も12月の障害者週間の中で障害のある人にもやさしい地域づくりを目指したイベントを実施したいと考えています。



▲ 開幕前のコマ

みんなで助け合って、買物のお手伝いを

市内2例目・緑区初

～ 自治会と地元社会福祉施設の取り組み ～

大椎台自治会と(社福)友和会「千寿苑」の連携による住民主体型“買物支援サービス”スタート!

日常的な買物に困っている大椎台自治会エリアにお住まいの高齢者の自宅とスーパー「せんだう土気店」の間を、社会福祉施設職員がデイサービス用の車両で週1回無料送迎します。

きっかけは

大椎台自治会

買物に行きづらい高齢者が多い。
自治会で何か出来ないか…

社協から両者を
つなげるご提案

千寿苑

地域のために何かしたい。
どんなニーズがあるだろうか…

行政機関が行うサービスは、だれでも同様のサービスを受けられるという良さがあります。一方で、細かな地域ニーズへの対応には限界があります。

この仕組みは、自分たちの住むまちで起こっている困りごとを自分たちで何とかしようとしていた自治会と、地域貢献を検討していた地元の高齢者施設とスーパーの意向が結びついたことでスタートしました。

地域の皆様が住民主体で支え合う取り組みに協力することで地域社会にすこしでも貢献できれば幸いです。

(特別養護老人ホーム千寿苑)



1人ずつ自宅に迎えに行きます。

買い物は「せんだう土気店」。
駐車場の確保など協力いただきました。

買物支援 サービス実施中

千寿苑
社会福祉法人 友和会
大椎台自治会・千歳市社会福祉協議会



スーパー「せんだう 土気店」に到着。
約30分のお買い物スタート!



地元の住民同士で会話も弾みます。



1人ずつ自宅まで送ります。
たくさん買物をして安心です。



「やっぱり、自分の目で見て、手に取って選ぶ買物は楽しい!」
五感を使うことで、介護予防にもつながります。

地域の力を活用した活動をお手伝いします。お困りごとご相談下さい。

問合せ先 区事務所(月曜日～金曜日(祝日を除く)8:30～17:30 電話番号は最終ページをご覧ください)

赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金へのご協力、誠にありがとうございました!

実績報告

【平成29年2月14日現在 千葉市支会取扱】

平成28年度募金実績額		赤い羽根募金(一般募金)	歳末たすけあい募金
募金内訳	戸別募金(各家庭からの協力)	18,835,394円	8,688,991円
	街頭募金(街を行く方々からの協力)	551,765円	679,974円
	法人募金(企業・商店からの協力)	991,093円	575,930円
	学校募金(児童・生徒・学生の方々からの協力)	1,714,490円	—
	職域募金(従業員・職員の方々からの協力)	1,219,385円	450,124円
	イベント募金(イベントに集まる方々からの協力)	231,345円	20,800円
	個人募金(個人の方々による協力)	250円	17,025円
	その他の募金(各種団体などからの協力)	2,343,737円	123,251円
合計		25,887,459円	10,556,095円

募金の主な使いみち

- 高齢者や子育て中の親子を対象としたサロンなどへの助成
- 在宅高齢者を対象としたふれあい食事サービスへの助成
- 民間保育園が実施する事業(遠足や運動会等)への助成
- 障害児・者施設への助成
- ボランティア活動への助成
- 福祉施設、団体の歳末行事(クリスマス会や新年会)などへの助成



▲ 体操で健康増進!

※詳しくは、赤い羽根データベース「はねっと」(hanett.akaihane.or.jp/)をご覧ください。

募金活動風景



◀ [左] 明聖高等学校のみなさん(赤い羽根共同募金)

【11月14～17日JR本千葉駅前にて】

毎年メンバーを募り、京成千葉中央駅と2か所で募金活動を実施していただいています。朝の寒い時間帯でしたが、熱心に活動をしていただきました。



[右] 三育小学校のみなさん(歳末たすけあい募金) ▶

【12月13日そごう千葉店様・広場にて】

クリスマスが近かったので、ハンドベルの演奏とともに募金活動を実施しました。道行く人々が次々に足を止めてくださいました。

問合せ先

千葉県共同募金会千葉市支会(千葉市社会福祉協議会内)
TEL: 043-209-8868 FAX: 043-312-2442

3月末まで募集しています。
引き続きご協力をお願いします。

